



四辻の齋嘉 (旧齋嘉織物)

東久方町二丁目の旧齋嘉織物の建物は、桐生天満宮前から東に向かって初めての四つ角に建ち、古くから「四辻の齋嘉」と呼ばれていたという。天神町と本町一丁目、東久方町一丁目との間に位置することが名前の由来だが、この建物を(株)桐生再生（清水宏康代表）が買い取り、リニューアルしてまち歩き観光の拠点にするに当たり、ゆかりの名前を継承し命名した。

ペーカリーレンガ前に建つ木造二階建ての重厚な建物は、旧齋嘉織物の主屋であり、長い間空き家となっていた。明治11年に建てられた蔵と大正12年に上棟した主屋、蔵前の座敷に囲炉裏のある土間、一階に五部屋、二階に二部屋という規模の大きな居宅、往時の織物業界の繁栄を物語る。

齋嘉織物は齋藤嘉吉氏が明治25年に創業したものとされる。大正6年の「両毛機業大観」に有力機業者として嘉吉氏の名が見られ、昭和3年の「日本織物総覧」には「黒朱子統製造」の織物業者として掲載されている。昭和11年当時の従業員は男子15人、女子112人を数えるほどの規模の織物業者だった。戦後は現在のテニスコート跡地に三連のノコギリ屋根工場を建設、煙突のある工場として親しまれた。昭和40年代まで操業されていたようだ。

平成24年に齋藤家から桐生再生が買い取り、建物の保存再生に取り組んだ。床板や雨戸の補修や畳の取り替えをはじめ内部の補修工事や450坪ある敷地の植栽工事などがほぼ終了、内部にはフランス料理店も入居する。4月14日には群馬大学の枝垂れ桜を見る会と連携して「お花見の会」を開く。これが実質的なお披露目の場となる。

再生に取り組む清水代表は、「蔵や二階和室の活用も急ぎ、桐生に来られる方をお迎えする拠点にしたい」と語る。重要伝統的建築物群保存地区に隣接する「四辻の齋嘉」の再生の意義は大きい。

- 住所／桐生市東久方町2-1-45
- 連絡先／桐生再生（TEL.0277-47-0414）



明治の蔵と大正の主屋
古民家再生、まち歩きの拠点へ